

A B r i e f N o t e N o . 1 9 6

発行日：2009.6.30

明石・鳴門・瀬戸大橋を一泊で往復する旅

吹田市 三輪長司

この4月から高速道路の通行料が、ETC付きの乗用車であれば土日祝日のみ、上限が1000円的大幅割引になった。世界金融危機を発端とした急激な世界不況に対する、政府の景気刺激策の一環で、消費刺激、地方観光振興の2年間限定の政策だ。このチャンスを生かそうと、通行料が高くてなかなか行けない四国へ車で渡る旅を企画した。

1.1000円高速の旅行プランを練る

そこで旅行ガイドの本を何冊か買い求め検討を始めた。宿は宿泊料の安い公共の宿とし、公共の宿では「西の横綱」と言われている岡山総社の「サンロード吉備路」に予約を取った。

次は旅行行程である。1日目は明石大橋、淡路島経由で四国へ渡り、高松自動車道を走って沿線を見物したのち、瀬戸大橋を渡って岡山へ行く行程を組み、2日目は岡山・倉敷周辺を観光し、山陽自動車道を大阪へ走る行程を考えた。これで走行距離は、1日目が300km、2日目が200km、合計500kmとなる。

通行料金は次の3点が適応される。大阪近郊は別立て割引料金、本四連絡橋は別料金(但し最高1000円)、四国で高速道路を下りるとそこで通し料金が切れる。実際の通行料金は(坂出で観光すると)、吹田 明石大橋 鳴門大橋 坂出 = 2650円、坂出 瀬戸大橋 倉敷 = 1150円、岡山 吹田 = 1650円となる。(これが仮に四国で高速道路を下りなければ、吹田 明石大橋 鳴門大橋 瀬戸大橋 倉敷 = 2650円となる)

しかし悩んだのが観光スポットである。徳島、高松、岡山、倉敷は過去に何度も行って、主な観光スポットは殆ど訪れている。繰り返し行きたい所が見当たらない。そこで旅行ガイドを隅から隅まで調べた結果、四国では丸亀にある京極旧藩主が創った大庭園「中津万象園」と「丸亀美術館」、坂出にある「東山魁夷せとうち美術館」を訪れることにし、岡山では、昨年葺き替えが終わった「吉備津神社」と「オリエント美術館」を訪れることにした。

2.高速道路のSAで食べられる美味しいセルフの讃岐うどん

下り中国自動車道は宝塚トンネルで大渋滞し1時間ほどロスした。明石大橋の交通量は多く淡路SAも混雑していた。徳島は素通りし高松自動車道を走って正午に「津田の松原SA」に着いた。当初予定では坂出に正午に着いて、名の通った店で讃岐うどんを食べる予定をしていた。しかし津田の松原SAに、自分でうどんを茹でトッピングも選ぶ、本格的なセルフの讃岐うどんの店があり行列が出来ていた。渋滞で時間をロスしたこともあり、予定を変更してここで讃岐うどんを食べることにした。

冷やし(ざる)うどんを食べたが、これが実に美味かった。太麺でコシがしっかりしていて喉越しが実に良い。つゆは薄口でそれでいて旨みのダシがよく効いている。自分が今まで高松を

訪れた折などに、舌に記憶がある美味かった讃岐うどんと同じ味覚だ。このような美味なセルフの讃岐うどんが、高速道路のSAで食べられることに驚いた。

3.素晴らしい大庭園「中津万象園」

丸亀にある「中津万象園」は実に素晴らしい大庭園だ。最初は江戸時代初期に丸亀二代目藩主京極高豊によって築庭されたもので、京極家の先祖の地である近江の琵琶湖を形取った池が中心に置かれている。樹齢600年といわれている「天下の名松」の見事な傘松もある。美術館も併設されており、ミレー、コロドーなどの西洋近代絵画の名作も多数コレクションされている。さらに陶器館もあり、そこにはBC2500年頃のイラクの壺やガンダーラの仏像なども展示されている。大庭園だけでなく、絵画、彫刻、陶器と、誠に充実したものだ。

この大庭園は300年の変遷を経て荒廃していたものを、富士建設が1970年に買い取り、専門家の指導を仰ぎながら、社員一丸となって庭園の復元にあたったものだという。企業の文化・芸術活動である「メセナ」の顕彰で、2006年度の庭園部門で一位を受賞している。企業のメセナといえば、サントリー・ホールやプリヂストン美術館などが有名だ。しかし大庭園を扱った企業メセナは珍しい。しかも歴史的に由緒ある大庭園を復元させた努力にはおおいに敬服する。しかしこれだけ見事な大庭園が一般に知られていないのか、観光客は誰もいなかった。誠にもったいない。



《中津万象園》

4.国の特別天然記念物「丹頂鶴」がいる宿

「中津万象園」でかなり時間を費やしたため、次の予定の「東山魁夷せとうち美術館」へは行かず、瀬戸大橋を渡って岡山総社の宿へ入った。ここは国民宿舎だけれど、実に設備の充実した宿である。温泉は自家源泉で加温、無色透明、弱放射能泉である。会席料理も新鮮な食材を使

っているようで味覚自慢の宿という。

この宿で驚いたのは、同じ敷地内の斜面を生かした場所に、国の特別天然記念物の丹頂鶴が飼育されている。聞くところによれば、昔はこの地域には丹頂鶴が生存していたそうだけれど、その後途絶えてしまったため、現在飼育中の鶴は中国から運んできたそうだ。この丹頂鶴が最近卵を産んで雛が二羽孵った。そのうち一羽は死んでしまったが、一羽は無事に育っていて、二週間前から放し飼いの場所に出され、飼育係が与えた餌を親子で仲良く食べている。丹頂鶴の雛は始めて見たが、産毛が薄茶色でとても可愛い。

この丹頂鶴の親子を観察し写真を撮ろうと、連日アマチュア・カメラマンが押し寄せているそうだ。みんな雛を見て興奮している。こういうことがあるとは知らなかったため、望遠レンズを持ってこなかったのが悔やまれる。カメラを構えていると、地元の愛好家達が盛んに話しかけてくる。大阪から来てここに泊まったと話すと、「日本広しといえども、丹頂鶴がいる宿屋はほかにない」と愛好家は自慢げに話していた。正にその通りだ。

この周りの田んぼには野生の白サギが生存している。この白サギの一羽が飛んできて、丹頂鶴の餌を横取りしていた。でも丹頂鶴は追い払わない。やはり野生と飼育では違う。



《吉備路の丹頂鶴と雛》

5. 久々に見る東山魁夷の絵画に感動

翌日は岡山周辺を観光する予定だったが、坂出にある県立「東山魁夷せとうち美術館」を時間の都合で訪れなかったため、翌日ふたたび瀬戸大橋を渡って訪れることにした。この美術館は坂出の瀬戸大橋ふもとの、瀬戸大橋開通時に建設された記念公園のエリア内にあり、平成 17 年に開館された。美術館の建物は美しい総ガラス張りの小さな二階建てで、瀬戸大橋が最も美しく見える先端の波打ち際に建っている。ここの喫茶室から望む瀬戸大橋の眺望は天下一品で

抜群だ。ここに東山美術館が造られたのは、東山魁夷のおじいさんが坂出出身のためだそう。

館内の展示作品は大半が小作品のリトグラフだった。東山の遺族(奥様)が手持ち作品を寄贈されたという。大作は一点だけ展示されていた。シャープのコマーシャルで有名な、緑と水面の中に白馬が静かに佇んでいる「緑の詩(うた)」である。(これは蓼科高原だとか)

東山の生の絵画を見るのはこれで3度目だが何回見ても感動する。特に「東山ブルー」といわれる独特の吸い込まれるような色彩は、深い印象で生でしか味わえないものだ。



《東山せとうち美術館から》

6. 帰りも同じSAで讃岐うどん

また四国へ渡ったためその後の帰路は、往路と同じ高松自動車道 鳴門大橋 淡路島 明石大橋のピストン・ルートで帰ることにした。これで往復600kmの行程になった。

上り車線の「津田の松原SA」に昼時に着いたので、そこでふたたび讃岐うどんに挑戦することにし、今度は皆が食べている熱いうどんにした。これがまた一段と美味い。これは癖になる味だ。しかも安い。よく見れば傍の売店で、お持ち帰り用に同じうどんが並べてあり、これが飛ぶように売っていた。

今回の旅は、行きたい目的地が先になく、安上がりの通行料に引きずられたものだ。しかし今回訪れたマイナーな観光スポットは、このようなきっかけがなかったら、行けてなかったに違いない。結果として面白い旅が出来たと思う。日本は世界一高い高速道路の通行料に阻まれて、地方の貴重な観光資源が埋もれていることを痛感した。